

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧URL(<http://www.nougyou.kitakamiwate.jp/agri/>)を記載している場合、新URL(<http://ruginet>)に読み替えてください。

平成14年 1月
岩手県病害虫防除所

病害虫防除技術情報 No.13 - 6

ピーマンの斑点病防除の実態と適正な防除

ピーマン果実への薬斑の付着を嫌って、発病しても適切な防除が行われていない事例が多く、そのため、斑点病が多発している。
散布農薬に展着剤を加用することによって、薬斑付着を軽減でき、適正な防除が可能となる。

斑点病の発生状況と防除の実態

- ・防除所の巡回調査では、6月から発生がみられ、8月以降発生程度の高い圃場が増加した(図1)。
- ・しかし発生しても防除が行われなかったり、適期防除が行われなかった圃場が全体の75%であった(図2)。
- ・無防除や防除の遅れが多発の原因になっていると考えられる(表1)。
- ・防除が行われなかった理由は、薬斑の付着により果実の拭き取り作業が過重となるためであった。

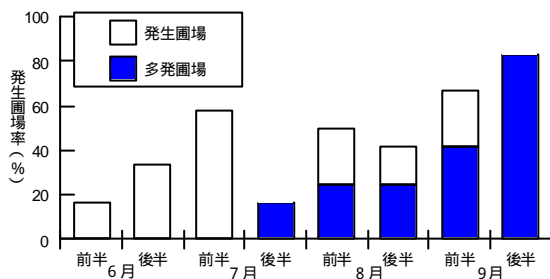


図1 発生状況 (巡回調査地点12圃場中)

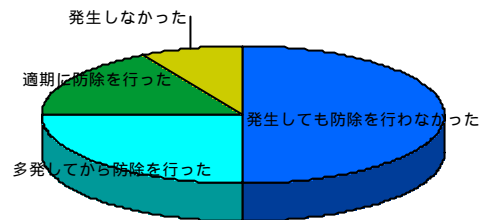


図2 巡回調査地点における防除実績

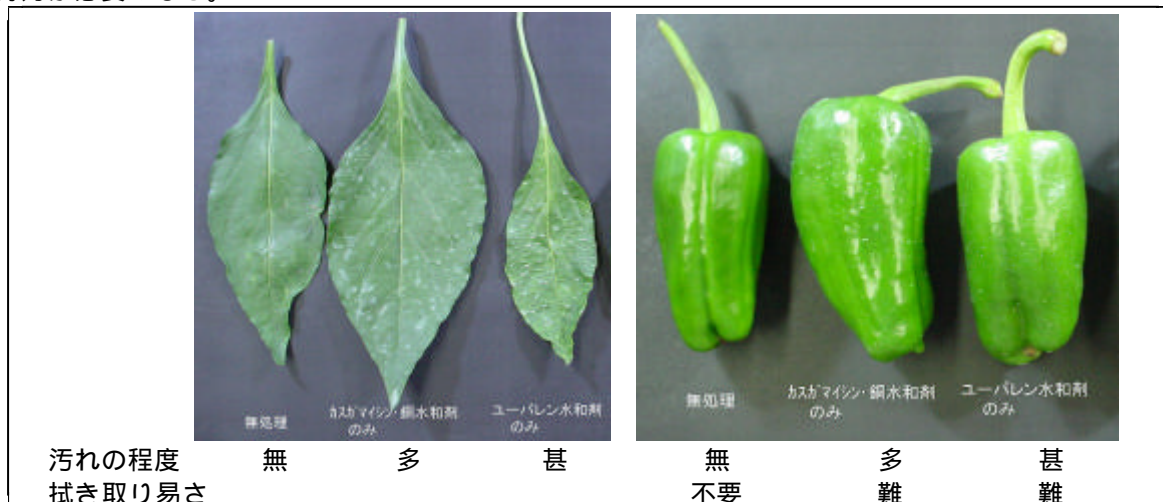
表1 調査圃場における薬剤防除の状況と発病株率の推移

防除状況	防除実施日	時期別発病株率 (%)				
		6月前半	7月前半	8月前半	9月前半	9月後半
適期防除を実施	7/15, 7/23	0.0	10.0	14.0	12.0	12.0
	6/ 1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
多発してから実施	8/18	0.0	6.0	36.0	84.0	44.0
	8/15	0.0	2.0	4.0	30.0	48.0
実施しなかった	-	0.0	4.0	12.0	18.0	72.0
	-	2.0	4.0	4.0	28.0	100.0

注) 青数字は防除実施時期の発病株率, 太数字は多発圃場の発病株率

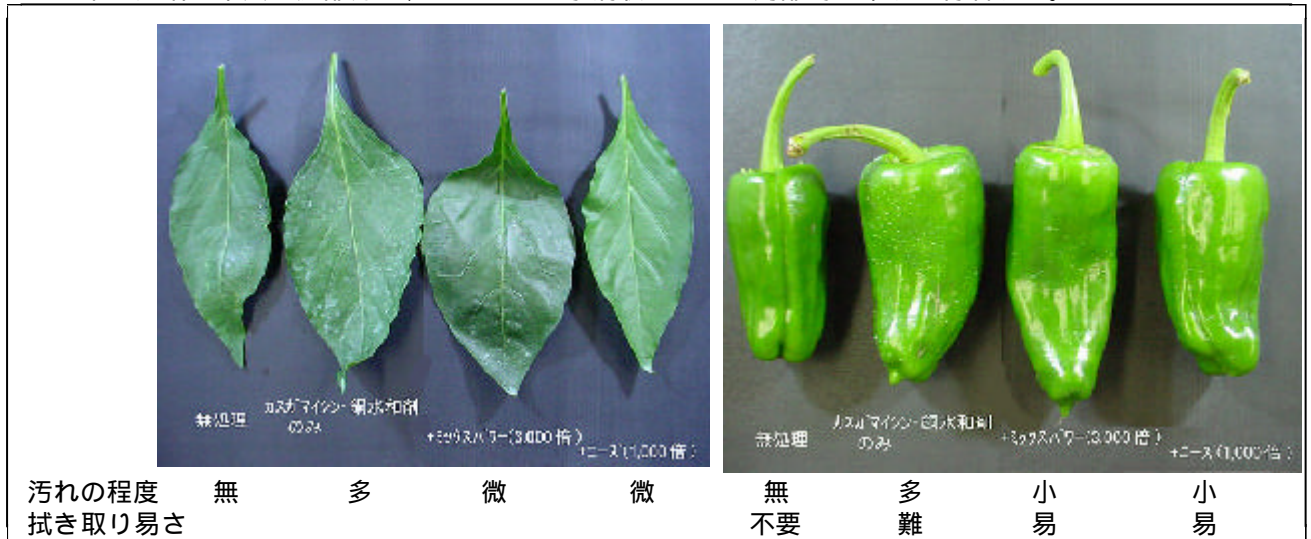
薬斑の程度と拭き取り易さ

カガマイン・銅水和剤及びユーパレン水和剤では、葉や果実にかなり濃い薬斑の付着がみられ拭き取りもかなりの労力が必要となる。

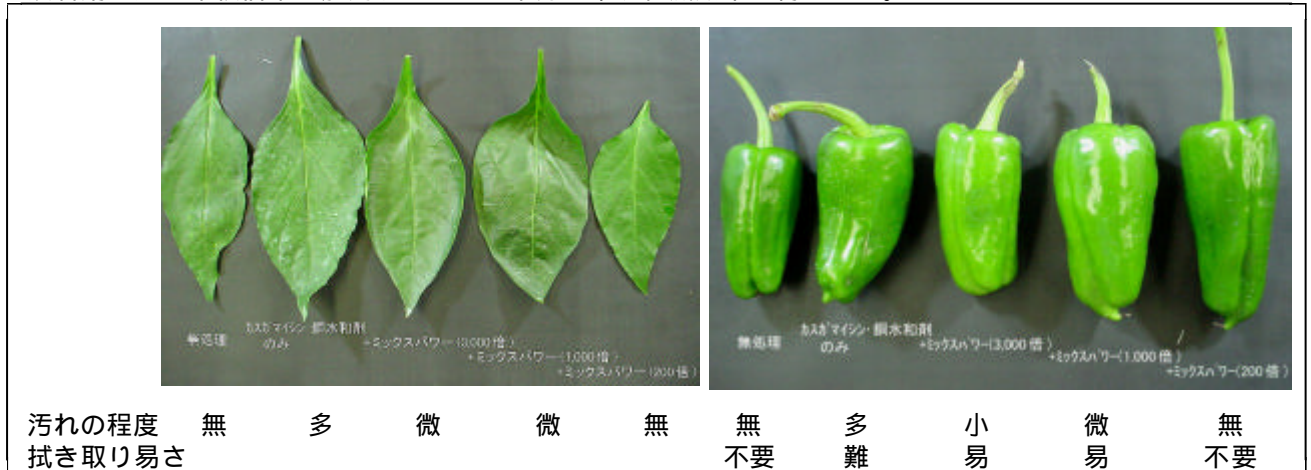


展着剤加用による薬斑の程度と拭き取り易さ

展着剤を加用しても若干の薬斑が残り拭き取り作業は必要となるが、展着剤を加用することで薬斑は軽減され、拭き取りも比較的容易となる。また加用する展着剤によって薬斑の発生状況に差がみられ、ミックスパワーでは葉の先端や果実の尻部分に、ニーズでは水滴状になって局部的に薬斑が付着する。



展着剤を適正希釈倍率で加用することで十分に薬斑軽減効果は得られる。



展着剤を適正濃度より高濃度で使用した場合薬液の付着量の低下や薬害の発生が問題となることがあるので、加用濃度には十分注意する。

- ・ミックスパワー200倍ではヘタ部分に褐変がみられ、ニーズ200倍でも極僅かであるが褐変がみられる。

